

整理番号：7-5

提言題名：モラルについて

【提言要旨】

モラルについて茨城県はあまり褒められたものではないように思われます。

33年前、取手駅で車座で「タバコ」を吸っている高校生がいたので注意したら逆襲され、何てことかとあきれました。

それ以来小学生、中学生に積極的に「おはようさん」「おかえりなさい」と挨拶するようにしています。大多数の生徒は返事してくれますが、無視する生徒もいます。「モラル」「道徳」をしっかり義務教育の中で教える必要性を感じています。取手市の教育委員の方針とかコンセプトは知りませんが、私の意見です。芸大の学生に協力してもらい少額1年生、2年生の生徒を中心に「モラル」について、自然学習のような方法で出来たらと思っています。年齢の近い先輩からの話は理解されやすいように思うからです。取手市独自の指導方法を作り、実行して頂くようお願いいたします。

(令和6年12月 受付)

【回答要旨】

取手市では、子どもたちが心身ともに健やかに成長し、社会の一員として主体的に生きていけるよう、道徳教育や体験学習を通して、モラル教育に努めています。挨拶については、単なる言葉のやり取りではなく、互いを尊重し良好な人間関係を築くための第一歩となり、挨拶を通して社会性を育み、心豊かな人間性を育むことができると考えています。

小中学校の道徳の授業においては、「モラルやきまり」といった節度や節制、遵守精神についての学習や「気持ちのよい挨拶」といった礼儀についての学習に取り組み、理解を深めています。特別活動では、自分たちできまりをつくって守る活動を充実させるルールメイキングに取り組みんだり、小学校と中学校、地域の方やPTAが連携して挨拶のよさを広める「あいさつ運動」に取り組みしたりしています。年齢の近い小学生と中学生と一緒に活動することで、交流を深めています。さらに、情報化社会の急激な変化に対応するため、情報モラル教育にも取り組んでいます。

取手市として、児童生徒の家庭環境なども考慮しながら、モラルや挨拶の意味や必要性について各学校で再確認するように指導しています。挨拶は、人と人を繋ぐ大切なコミュニケーションの1つで、相手との関係を良好に保つことができると考えています。また、挨拶をすることで地域住民の方との関わりができ、防犯意識も高まります。

取手市の小中学生は芸大の学生と音楽や美術の授業で交流がありますので、ご意見を参考させていただき、今後もモラル教育や挨拶の励行について向上が図られるように、各学校に働きかけをしていきます。

(令和6年12月 指導課回答)